1課

1月7日

神の家族の一員として

安息日午後	12 月 31 日

暗唱聖句

わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。（1 ヨハネ 3：1、口語訳）

御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。（1 ヨハネ 3：1、新共同訳）

今週の聖句

ガラテヤ 3：26、29、詩編 50：10～12、歴代誌上 29：13、14、フィリピ 4：19、1 ヨハネ 5：3、マタイ 6：19～21

今週のテーマ

クリスチャンとして、神との関係についての驚くべき事柄の一つは、神が私たちを信頼して、神の地上での働きを私たちにゆだねておられることです。人類史の最初に、明らかに神は、傷のない被造物に個人的な関心を払う者としてアダムとエバを任命されました（創2：7～9、15参照）。動物たちに名前を付けることに始まり、園を守り、地をその子らで満たすことに至るまで、神は私たちが地上で神のために働くことを教えてくださいました。

主はまた資産をもって私たちを祝福されます。しかし、私たちは、それら資産の管理を任されているのであり、そのために金銭を集め、小切手を切り、電子送金をし、予算を組み、あるいは土曜日の朝、什一と献金を携えて教会に行くのです。神は私たちに、神がお与えになった資産を、私たちの必要のために、他者の必要のために、そして神の御業の進展のために用いるよう奨めておられます。信じがたいことに、主は私たちに、神の子どもたちを育て、神の建物を建て、そして次の世代を教育することをゆだねられました。

今週、私たちは神の家族の一員であることの特権と責任について学びます。

日曜日　1月1日　私たちは神の家族の一員

問1　「こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています」（エフェ3：14、15）。この聖句はどんなイメージを呼び起こし、どんな希望を見いだしますか。

その宣教の初めにイエスは、「だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇（あが）められますように』」（マタ6：9）と言われました。後にイエスは、弟子たちに個人的に同じ祈りを教えます（ルカ11：2）。イエスは父なる神を「天におられるわたしたちの父」と呼ぶようにお命じになりました。復活後にマリアに会われたとき、すがりつこうとする彼女にイエスは言われました。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と」（ヨハ20：17）。

私たちにはイエスと同じ御父がおられるので、イエスは私たちの兄弟であり、私たちは皆、主にある兄弟姉妹です。イエスが地上の家族の一員になられたので、私たちは天の家族の一員になることができたのです。「天の家族と地の家族は1つである」（『希望への光』1118ページ、『各時代の希望』下巻387ページ）。

問2　出エジプト記3：10、同5：1、ガラテヤ3：26、29を読んでください。これらの聖句は神の私たちに対する関係について何を語り、それはなぜ私たちに励ましを与えるのでしょうか。

私たちが冷たく、意図のない自然の法則の産物にすぎないという創造観とは対照的に、聖書は、神は存在するだけでなく、私たちを愛し、関わられ、その関わりは、聖書の中でしばしば家族のイメージが用いられているほど愛に満ちていることを教えています。イエスがイスラエルを「わたしの民」と呼び、私たちを「神の子ら」と呼び、神を「私たちの父」と呼ばれるのも、要点は同じです。つまり、神は家族が互いに愛し合うように私たちを愛しておられるのです。この敵対する世界にあって、これはなんとすばらしい知らせなのでしょう！

私たち1人ひとりが家族とみなされる世界を想像してみてください。どうすれば全人類が兄弟姉妹として、より良い関係を学ぶことができるでしょうか。

問3　詩編 50：10～12、詩編 24：1、歴代誌上 29：13、14、ハガイ 2：8を読んでください。ここにどんなメッセージがありますか。この真理は私たちにとってどんな意味を持ちますか。私たちの所有物との関係はどうあるべきでしょうか。

歴代誌上17章は、神のために家を建てたいというダビデ王の強い思いを記録しています。彼はこの思いを預言者ナタンに打ち明けますが、ナタンは「心にあることは何でも実行なさるとよいでしょう。神はあなたと共におられます」（代上17：2）と答えました。しかし、その夜、神の御言葉がナタンに臨み、ダビデ王に、彼は戦いの人であるから神の家を建てることはできない。彼の息子が代わって建てるのだと告げるように命じました。ダビデはせめて建築の計画を立て、材料を準備することはできないだろうかと願いました。この願いは許され、ダビデは残りの生涯を膨大な量の石材、レバノン杉の材木、そして「量りきれない」ほどの鉄、金、銀、青銅を集めるために費やしました。すべての神殿の建設資材が準備され建設予定地に集められたとき、ダビデは共に賛美と感謝の儀式を行うために、すべてのイスラエルの高官たちを招集しました。

歴代誌上29：13、14の公の祈りの中で、ダビデは、自らと民が時間と金銭を費やして準備したすべての建築資材の真の源は何だと言っているでしょうか。もちろん、それは彼の次の言葉に集約されます。「すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません」

ここに、貧富にかかわらず、私たちすべて（特に富んでいる者）にとって重要な教えがあります。初めに神がすべてのものを造られたのですから（創1：1、ヨハ1：3、詩編33：6、9参照）、真に主こそが、私たちが持っている物を含めて――私たちがどんなに一生懸命に、熱心に、誠実に、それらのために働いたとしても、存在するすべてのものの正当な所有者です。神とその恵みがなければ、私たちは何も持たず、何者でもなく、事実、存在すらできません。ですから、私たちは常に、究極の意味において神が存在するすべてのものの所有者であるという認識を持って生きなければなりません。そして、私たちに対する神の善良さを賛美し、感謝することによって、私たちはこの重要な真理を覚えることができるのです。

「このような寄進ができるとしても、わたしなど果たして何者でしょう、わたしの民など何者でしょう」（代上 29：14）。ここに、神と所有物に対する私たちの態度について、どのようなすばらしい原則が表現されていますか。

火曜日　1月3日　神の家族のための資産

神が、御自分の子らに与えられた最も大いなる賜物はイエス・キリストです。イエスは、私たちに赦(ゆる)しによる平安、日々の生活と霊的な成長のための恵み、そして永遠の命の希望をもたらされます。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハ3：16）。「しかし、言(ことば)は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた」（同1：12）。

ですから、救いは根本的に賜物です。なぜならこの賜物以外に、私たちが神からいただくものの中で、長い目で見て、真に大切なものは他にあるでしょうか。地上で何を持っていようと、私たちは、いつかは死んでいなくなり、私たちを思い出す者もいなくなります。そして、私たちがしたどんな善行も忘れられるでしょう。ですから、私たちは何よりもまず、福音の賜物、すなわちキリスト、それも十字架につけられたキリスト（1コリ2：2）を常に私たちのすべての考えの中心に置いておく必要があります。

そして、神は救いに加えてさらに多くのものを与えられます。何を食べようか、何を着ようかと心配する者たちに、イエスは、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」（マタ6：33）と言われ、慰めを与えられました。

問4　詩編23：1、詩編37：25、フィリピ4：19を読んでください。神は私たちの日ごとの必要のために何を備えられていますか。

また、イエスは天に昇る前に、弟子たちを慰めるために聖霊の賜物を約束されました。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。」（ヨハ14：16）。「その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」（同16：13）。

そして、聖霊ご自身は、神の子らに驚くべき霊的な賜物を与えられます（1コリ12：4～11）。つまり、私たちが「生き、動き、存在する」（使徒17：28）神、「すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださる」（同17：25）神は、私たちに存在、救いの約束、物質的な祝福、さらに他者を祝福するための霊的な賜物を与えられます。私たちの持っている物や祝福された賜物、才能が何であれ、私たちはそれらの賜物をどのように用いるかについて、それがどんな方法であれ、与え主である神に責任を負っています。

水曜日　1月4日　神の家族の一員としての責任

私たちは皆、神が与えてくださる霊的、かつ物質的な祝福と、賜物を享受しています。「神の家族の一員」であることを知ることも、私たちにとってどれほど大きな慰めとなるでしょうか。

問5　申命記6：5とマタイ22：37を読んでください。これは何を意味し、私たちはどのようにこれを行うのでしょうか。

あなたはどのようにして「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」（マタ22：37）神を愛していますか。聖書は私たちに非常に興味深い答えを与えていますが、その答えは、ほとんどの人が期待するものではありません。

問6　申命記10：12、13と1ヨハネ5：3を読んでください。聖書的に言えば、天の父との愛の関係における私たちの正しい応答とは、どんなことでしょうか。

正しい応答とは、律法を守ることでしょうか。十戒に従うことでしょうか。不幸なことに、多くのクリスチャンは、律法に従うこと（特に第四条）は、律法主義であり、私たちは単に神を愛し、自分のように隣人を愛するために召されているのだと主張します。しかしながら、神は明確です。私たちは神と隣人への愛を、神の戒めに従うことによって表すのです。

「神の戒めを守ること、これが神を愛することだからです」（1ヨハ5：3、聖書協会共同訳）。私たちはこの聖句を、私たちは神を愛しているので、神の戒めに従うのだと理解しています。それは正しいことですが、私たちはこの聖句を、神の戒めを守ることによって、神の愛を知り、体験することになると読むこともできるのではないでしょうか。

マタイ7：21～27でイエスは、神の御言葉を聞いて行う者たちを、岩の上に家を建てた賢い者にたとえられ、聞くだけで従わなかった者たちを、砂の上に家を建てた愚かな者にたとえられましたが、その結果は悲惨なものでした。両者とも神の御言葉を聞きましたが、一方は御言葉に従い、他方は従いませんでした。その結果が生と死の違いを生みました。

神への愛はなぜ律法に従うことに表れるのでしょうか（神の律法に従わないことが何を招くかを考えるとヒントになるでしょう）。

木曜日　1月5日　天に宝を積む

問7　「あなたがたは地上に富を積んではならない。……あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ」（マタ6：19、21）。ここでイエスはどんな重要な真理を語っておられますか。

巨万の富を蓄えながら、後にそれらをすべて失ったという話は少しもめずらしくありません。私たちの住むこの世界はきわめて不確かな所です。戦争、犯罪、暴力、自然災害などが起こって一瞬のうちに、私たちが汗して働いて蓄えたもの、もしかしたら忠実に働いて得たものさえも奪ってしまうことがあります。そしてまた、死が訪れたら一瞬のうちに、それらのものが、私たちにとって意味のないものになります。

もちろん、聖書は金持ちになることも、富を蓄えることも悪いことだとは言っていません。そうではなくイエスは、これらの聖句を通して、この世の富しか目に入らなくなることを警告されているのです。

しかし、天に宝を積むとはどういう意味でしょうか。それは、何よりもまず金銭を重要なものとするのではなく、神と神の働きを第一にすることを意味します。とりわけ、神の御業のために、神の国の進展のために、他者の益となる働きのために、そして他者を祝福するために、自分の持っているものを用いることを意味します。

例えば、神がアブラムを召されたのは、アブラムとその家族を用いて地上のすべての家族を祝福するためでした。神は、「神の友と呼ばれた」（ヤコ2：23）アブラハムに言われました。「わたしはあなたを大いなる国民にし／あなたを祝福し、あなたの名を高める／祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し／あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る」（創12：2、3）。

「それで、信仰によって生きる人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されています」（ガラ3：9）。私たちはアブラハムと同じ使命を与えられているのです。

「金銭は、大いなる善をすることができるから、大きな価値がある。それが神の子供たちの手にあれば、貧しい人の食事、かわいた人の水、裸の人の着物となり、圧迫されている人々の防御となり、病人を助ける手段にもなる。金銭は、困っている人々を助け、他を祝福し、キリストの働きを前進させるために用いてこそ、価値があるのであって、もしそうでないならば、金銭は砂と同様でなんの価値もないのである」（『希望への光』1324ページ、『キリストの実物教訓』327ページ）。

金曜日　1月6日　さらなる研究

「神は、死よりも強い愛をもって、地上の子らに思いをかけておいでになります。神がひとり子をお与えになったということは、全天をそそぎだして、一つの賜物として与えられたということなのです。救い主の生涯、死、その執り成し、天使の奉仕、聖霊の懇願これらいっさいのものを通じて働いておいでになる父なる神と、天の住民たちの絶えざる関心などが、ことごとく人の救いのために力をそえているのです」（『希望への光』1939、1940ページ、『キリストへの道』20ページ）。

「あなたが自我を捨て、自分自身をキリストにささげるなら、あなたは神の家族の一員であり、父の家のものはすべて、あなたのものなのである。神の宝はすべて、今の世にあっても来たるべき世にあっても、あなたに開かれている。天使の奉仕、聖霊の賜物、神のしもべたちの働き――これらすべてはあなたのためである。 世界と、その中にあるすべてのものは、それがあなたに役立つ限り、あなたのものである」（『希望への光』1169ページ、『祝福の山』138ページ）。

話し合いのための質問

❶ 神がその子らにお与えになるすべての賜物を前に、私たちは詩編記者のように、「主はわたしに報いてくださった。わたしはどのように答えようか」（116：12）と問わずにはいられません。あなたが霊的、物質的に、神から与えられた祝福と賜物のリストを作り、クラスで分かち合いましょう。あなたがどれほど神に感謝すべきか、そのリストは教えてくれるでしょう。

❷ 私たちは神を創造主として考えます。それは正しいのですが、聖書は繰り返し、神を保持者としても描いています（ヘブ1：3、ヨブ38：33～37、詩編135：6、7、コロ1：17、使徒17：28、2ペト3：7）。神が保持者であるという聖書の真理は、私たちが神から与えられているものをどのように用いるべきかという点で私たちの義務が何であるかを教えています。この真理は、私たちが人生の目的を正しく理解する上で、どのような助けとなるでしょうか。

❸ 今週、私たちは、神からの最大の賜物はイエスと救いの計画であることを学びました。それはなぜですか。もしその賜物がなかったら、またこの賜物がもたらす大きな希望がなかったら、私たちに何が残るでしょうか。ある無神論者の作家は、人間を「粉々に砕ける骨についた腐敗する肉の塊」と描写しましたが、福音という賜物を持たないとき、人はなぜこのような結論に至るのでしょうか。

マラウイ湖の宣教地

セブンスデー・アドベンチストの大学生、レヴィソン・カウォンガは、マラウイ湖のチズムル島で開かれていたパスファインダーの集会後、見知らぬ人に呼び止められました。彼の緑色のパスファインダーの制服が彼女の注意を引いたのです。

その人は興味深げに、「どこから来たのですか」と尋ねました。レヴィソンが、「アドベンチスト教会のパスファインダーのイベントに参加していたのです」と言うと、「私は昔、アドベンチストでした。アドベンチストの男性と結婚したのですが、離婚しました」と、彼女は語り始めました。離婚後はバーに通い、乱れた生活をしていましたが、その後チズムルへ移り、高校教師と再婚したとのことでした。

次の安息日、彼女はアドベンチスト教会に現れ、礼拝を楽しみました。そして、レヴィソンに聖書研究を依頼しました。レヴィソンは大喜びしました。神様の愛を伝えるためにこの島に来たからです。彼は、そこから100キロ離れた所にある公立のムズズ大学のアドベンチスト学生クラブに所属していました。このクラブは、週2回の祈祷会を通して学生の信仰を強め、クラスメートに伝道することを目的としていました。クラブは、ムズズ・セブンスデー・アドベンチスト教会に発展し、チズムルなどの地域で宣教活動を行うようになりました。

レヴィソンは彼女の家を訪問し、聖書研究のあと、『各時代の大争闘』を含む数冊の本を置いていきました。2回目に訪問すると、彼女の夫が『大争闘』に夢中になっていました。「土曜日と日曜日にどんな違いがあるのですか」と、夫は尋ねました。聖書研究の終わりに、「次の安息日には、妻と教会に行きますよ」と、彼は約束しました。数か月後、この夫婦（写真）は心をイエス様にささげ、バプテスマを受けました。今日、彼らはチズムル の教会の熱心な教会員です。

レヴィソンは、神様が伝道のために若者を用いることがおできになると確信しています。彼は、次のように言います。「今こそ、イエス・キリストの福音を異なるクラスの人々に伝える時なのです。学生のクラブとして始まったムズニ・セブンスデー・アドベンチスト教会は、チズムルでの取り組みがこのような実を結ぶとは夢にも思っていませんでした。神様に栄光がありますように！」

今期の13回献金の一部は、東中央アフリカ支部のアドベンチストの教育のために用いられます。マラウイでの教育を拡張する助けとなっている2021年第2期13回献金を感謝します。（A・D・V・モヨ）